

市民健康講座レポート vol.1

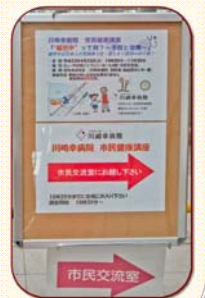
講座名：『脳卒中って何？
～予防と治療～』

講師：岩井 良成 医師
(川崎幸病院統括副院長 脳血管センター長)

日時：平成23年4月23日 (土)
10時30分～11時30分

場所：ミュージア川崎
シンフォニーホール4階『市民交流室』

参加者：満席 (定員150名)



講座レポート

●たいへん多くの皆様に参加いただきました！

当日は、残念なことに雨…。しかし、足元が悪い状況にも関わらず、たいへん多くの地域の方々にご参加いただき、会場は満席になりました。

全員分の座席をご用意できず、ご迷惑をおかけいたしました。深くお詫び申し上げます。



●息抜きもしっかり

講座中は岩井医師の「ジョーク」も飛び出し、会場からは笑い声がおこることもしばしば。メリハリのある講座となり、あっという間に1時間が過ぎてしまいました。

●闊達な質疑応答

講座後は、質疑応答の時間を設けました。参加者からは、積極的な質問の声が上がりました。

皆様の健康に対する意識の高さをひしひしと感じるとともに、川崎幸病院は、今後も、より良い講座を提供していかなければと決意を新たにしました。



■講座レジュメ

●脳卒中とは？

・脳卒中は、『血管が詰まる病気』(脳梗塞、一過性脳虚血発作など)と『血管が破れる病気』(脳出血、くも膜下出血)に大きく2つ分かれます。日本では、以前は脳出血が多かったのですが、最近になり、生活習慣の変化に伴い、脳梗塞(全体の6~7割)になる患者さんが増えてきています。

・脳卒中は**死亡原因の第3位**、**寝たきりになる原因の第1位**と非常に怖い疾患です。また脳卒中の患者さんは**全国で272万人**、年間27万人以上新たに発生している状況で、今後も増えていくことが想定されています。

・脳卒中の予防や早期治療に努め、「寝たきり」を減らしていくことが、我々、「川崎幸病院脳血管センター」の役割だと切実に受け止めています。



●脳梗塞の初期症状とは？

「一過性脳虚血発作」というものがあり、急に脳の血液の流れが悪くなり、「麻痺が出る、ろれつが回らなくなる、発声がしづらくなる」などの症状があらわれますが、この症状は**1~24時間以内に完全になくなってしまいます**。そのため、ほとんどの人が「**気のせいだ**」と思ってしまうのが怖いところなのですが、初めてこの症状が出てから90日以内に20%の人が脳梗塞を発症してしまうのです。さらに怖いのが発症する方の**50%は48時間以内に発症**します。ですから、このような症状が出たら、**脳梗塞になる前に病院で、検査をし治療を受けていただきたい**のです。

●**脳梗塞の治療法** ※実際の画像を用い分かりやすく解説しました。

・内科的治療

t-PA静注療法:t-PAという薬を注射して、血栓(詰まった血)を溶かす治療法です。脳梗塞の治療は、早期に血流を回復することが重要であり、t-PAは有効な治療法とされています。但し、t-PAは3時間以内に静脈注射をしなければなりません。それ故**発症から病院に到着(2時間以内)するまでの時間が『鍵』**なのです。症状が出たら、即、救急車を呼んでいただくことが大切です。

・外科的治療

脳の血流が不足した場合に、頭皮下の動脈を、脳の動脈につなぐバイパス手術や、脳につながる頸部の動脈が、動脈硬化により狭くなり脳梗塞のリスクがあるときに、動脈硬化の部分を取り除く手術などがあります。

・カテーテル治療

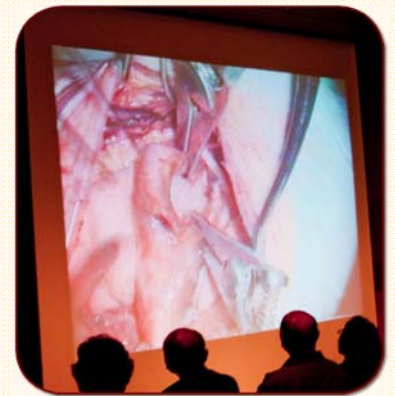
カテーテルという管を頭の詰まっている血管まで持っていき治療します。①血栓を溶かす薬を投与する②バルーン(風船)を持っていき狭くなった血管を広げる③ステント(金属の筒)を入れて狭くなった血管を広げるなどがあります。

●脳卒中の予防

危険因子は？

動脈硬化、高血圧、糖尿病、高脂血症、喫煙、過度の飲酒(1合以上)、肥満など

危険因子が重なれば重なるほど、脳卒中にかかる危険性が高くなっていきます。ひとつずつ危険因子を解消していくことが大切です。



●最後に

脳卒中は早期治療が大切です。

危険因子を改善し、予防につとめるとともに、少しでも脳卒中を疑う症状が出たら(腕・顔・言葉の症状)様子を見るのではなく、即、救急車を呼んでください。

早期に治療することで、半身麻痺や寝たきりなどの重大な後遺症を残さない可能性が高くなります。